

『錦繡』登場人物

主人公である亜紀と靖明。
そして、二人が交わす手紙に登場する主な人物を紹介します。

瀬尾 由加子

靖明が舞鶴の中学に四ヶ月間だけ通った時の同級生。高校卒業後京都へ出てきて、昼間デパートに勤める傍ら、夜は祇園でホステスをしていた。靖明と再会し不倫関係を結ぶ。京都・嵐山の旅館で、靖明をナイフで刺した後、自ら命を絶ってしまう。

令子

靖明と一緒に暮らしている女性。靖明と亜紀が蔵王で再会する一年前に知り合った。未婚で、スーパーのレジ係をしている。無口で気立てが良く、優しい。靖明に、生きる力を取り戻させたいと思っている。

有馬 靖明

亜紀の前夫。少年時代に両親を亡くしている。亜紀との結婚で星島建設後継者と期待されるが、初恋の女性・由加子と不倫関係に陥り、心中未遂事件をきっかけに離婚。その後、転げ落ちるような人生を送っている。現在は令子と同居中。

勝沼 亜紀

(旧姓：星島)

建設会社社長の一人娘。恋愛の末、大学時代の先輩であった靖明と結婚するが、二年後に夫の心中未遂事件のため離婚。翌年、勝沼と再婚し、息子・清高を出産。障害を持って生まれた清高を、普通の子どもの同じことが出来るようにと懸命に育てている。

星島 照孝

亜紀の父親であり、一番の理解者。亡くなった妻に代わり、男手ひとつで亜紀を育てる。星島建設を一代で築きあげた凄腕の社長。

勝沼 壮一郎

大学の助教授。「モーツァルト」の主人の甥。喫茶店の火災の後、夫妻の自宅に見舞いに来ていた亜紀に偶然出会い一目ぼれして結婚。しかし、教養と不倫関係に陥ってしまう。

■ 喫茶店「モーツァルト」の夫妻

モーツァルトをこよなく愛し、店内にはモーツァルトの曲だけを流す喫茶店を経営する夫妻。この店は離婚後の亜紀の憩いの場となるが、火事で消失。その後再建される。

勝沼 清高

亜紀と勝沼との間に生まれた子ども。生まれつき下半身が不自由で先天性の脳性マヒを持つ。